

<p>第 1 回 (2008.04.11)</p>	<p>『図書館情報および 図書館の種類とその機能』 大西有三図書館機構長・附属図書館長</p>
<p>◇第 1 回講義 (場所：吉田南 1 号館 311 号室 出席者数：145 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布物：PowerPoint 資料(A4, 両面 7 p.)、授業スケジュール (A4, 1 p.)、アンケート (A4, 1 p.)</li> <li>・講義スタイル：PowerPoint(73slides)によるプレゼンテーション</li> </ul> <p>◇事務連絡(附属図書館参考調査掛)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講人数制限に関する注意、配布資料の確認、講義内容・場所およびスケジュールについて</li> </ul> <p>◇講義目的 &lt;大学図書館とは、特に京都大学図書館とは何か&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの案内：全学共通科目：情報探索入門テキスト PDF で利用可能</li> </ul> <p>◇講義内容</p> <p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の本質とは利用者に早く・確実に求める資料・情報を提供するもの。インターネットでの検索と同軸であるなら、大学図書館の役割は何かとの疑問を提起。</li> </ul> <p>『Google は「知」にらず』(東大小宮山総長)を引用して、インターネットでの検索は知識の集積で、知的関心(知恵)の答えは出さない。情報を選択・解釈・加工して、知識を統合化するのは本人であり、そこが大学人たる所以であると喚起。</p> <p>○京都大学図書館の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミッション： 学習図書館機能(学生へのサービス)、研究図書館機能(研究者へのサービス)、その他(社会へのサービス、情報発信)の 3 本。教育的機能としてこの講義とともに、情報リテラシーが在る。基礎的なことを満足に行なうスキルを身につけて卒業して欲しい。</li> <li>・図書館全体説明： 機構、学内の図書館・図書室、蔵書数(国内外と比較)、国宝・重要文化財、HP。</li> <li>・学生向け事業： 学習図書館、学部生向け図書・居場所の整備(附属図書館 24 時間対応予定)。</li> <li>・情報発信： 貴重書画像、電子化テキスト、博士論文論題、機関リポジトリ、DB(データベース)</li> <li>・今後の課題： 電子化・電子図書館及び学生サービスの充実。費用、メンテ、セキュリティ問題。</li> <li>・学術情報インフラ整備と課題： 電子ジャーナル、DB、目録遡及入力(検索の利便性向上のため)、大型コレクション・高額資料等とあわせて、学生用図書の充実を図る必要がある。</li> <li>・電子ジャーナル： 契約タイトル数約 2 万タイトル、国内 3 位であるが、米国 YALE 大は約 6 万タイトル(2003 年度)で国際的に上位とはいえない。</li> <li>・全国的連携の強化と国際的な情報の共有： 国大図協、国公立大学間の連携、大学コンソーシアム京都との連携、ILL、NII、国際的な連携・共有。</li> <li>・マルチメディア電子図書館の構想： 将来は自由度の高い情報(多言語・3D 等々)の取扱可能に。</li> </ul> <p>○今後の図書館のあり方『利用者サービス!』利用者の声に基づき、各種サービスの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内： 図書館機構サービス案内、HP、京都大学 MyKULINE、携帯での検索、文献収集の基礎、レファレンスサービス(質の向上、デジタル・レファレンス)、</li> <li>・全国： Webcat、Webcat Plus(一致・連想検索、検索から案内へ)など。</li> <li>・項目別</li> </ul> <p>：電子ジャーナルの充実。契約タイトル数が多い程資料収集の労力・手間・時間の軽減となる。</p>	

: 学術資料の電子化、デジタル・アーカイブズ、機関リポジトリの整備・充実・提供。

: OCW(Open Course Ware)、YouTube による授業等の配信。(著作権に留意)

・ **電子資料中心の基盤整備:** 大学図書館の役割が問われる。

: 電子資源の管理、利用の確立。図書館間の新しい協力体制。生産物の電子化。

: 電子媒体と紙媒体の優位性の論争。電子媒体は 1000 年の長期保存に耐えうるか? 紫外線に対する脆弱性、再生機器の必要性。半面、検索・複製の優位性。

: 課題。情報の公開・独占・保存。今後考えるべき問題である。

○ **インターネット時代のマナー**

・ インターネット時代初期の『善意の世界時代』から『自分で自分を守る時代』へ

・ 『情報倫理』と『ネチケツ』、著作権を含む知的所有(財産)権、プライバシー権にも留意が必要。

・ 不正利用(大量ダウンロード)とセキュリティ。

・ e-learning(情報環境機構 HP 内)による情報教育

○ **知的所有権と著作権:** 利益の保護、所有権の保護、著作物の保護

・ インターネットからの流用でも出典を明らかにする事。

・ 引用時の最低限の作法(書誌データの明記)

○ **ネットワーク時代における図書館の意義。問題提起に対する回答**

・ 図書館に「実の情報」が存在することにより、『自分にとって本当に必要かどうか』を能動的に選択でき、バーチャルではないリアリティの『知的空間』が感じられる。

・ 従来型の図書館に本来の機能があり、電子図書館はそれを支援するものであり否定するものではない。

ともかく、一度『図書館へ行こう!!』